

## 瀋陽駐在員事務所



3月に開催した道人会  
メンバーの記念写真

### 北の大地の道産子たち

北海道庁国際課 HP によると、北はロシアから南はアルゼンチンまで、世界 14 か国に「北海道人会」が存在し、約 3,700 人の会員がいるそうです。そんな世界各国で活躍する道産子達に負けずと当地瀋陽でも「北海道人会」があります。始まりは 2006 年 8 月。当事務所の開設と同時に有志一同が集まって開催したのがきっかけで、以来当事務所が事務局を務めています。

「北海道での在住経験がある」が会員資格で下は 2 歳から、上は 75 歳まで幅広いメンバーがいます。会員数は、2012 年 3 月末で約 25 名。年数回、15~6 人が集まり、親交を深めています。

そして、道産子達が集まって食べるものと言えば・・・そう、ジンギスカンとおにぎりですよ。当地瀋陽の北海道人会は、毎回懇意にしている焼肉店にお願ひし、特別にジンギスカンを用意して頂いています。野菜も羊肉も瀋陽にはたくさんあります。また、厚手のジンギスカン鍋も当地で手に入ります（探すのが大変だったそうですが・・・）。問題だったのは、ジンギスカンのタレ。これだけはなかなかその味を再現出来なかった為、北海道へ一時帰国した会員達がハンドキャリーで持込み、ボトルキープならぬ「タレキープ」を行い利用しています。

会の始まりは「親父共の酒盛りの場」。しかし、時代と共に「アットホームな家族だんらんの場」へと姿形を変えながら、当地瀋陽でも北の大地の道産子達は頑張っています。

渋川 隆彦

## (財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室



### 「本当にさよなら北京」

1 年前に『さよなら北京』という題名でとびっくすを書かせていただきましたが、今度は本当に小職が北京を去ることになりました。3 年間の駐在員生活で一番感じたのは中国における「北海道」の知名度の高さです。そして中国の方の北海道に対する憧れは想像以上だと思います。ある日系小売店が行った「旅行で一番行きたい場所は？」というアンケートで 1 位はバリ島、2 位は海南島、そして堂々の 3 位が北海道です。パリやニューヨーク、東京よりも上位です。そういった意味ではまだまだビジネスチャンスは発掘できていると思っています。

最後に皆さんに是非伝えたいことは、既にお分かりの方も少なくないかも知れませんが、メディアで伝えている中国というのは本当にごく一部でしかないということです。歴史が違う、人口が違う、民族が違う、国土も違う、色々なものが違う中では何が真実か、と語るのは非常に難しいです。皆さんが思われている以上に日本は尊敬されていますし、日本を好きな人も非常に多いと感じます。今年は日中国交正常化 40 周年ですし、中国に携わった者としては両国の関係が良くなり、ヒト・モノ・カネの流れが益々活発になり、両国が栄えていくことを真に願っています。

これからも出来る範囲で日中間の経済に寄与することが出来ればと思っております。3 年間、有難うございました。

中島 康成

## ユジノサハリンスク駐在員事務所

### 「初めての海外赴任で・・・PART 9」

#### 「猛吹雪！」

その日のことは生涯忘れることは無いでしょう。4月4日（水）は週末の会議出席のため帰国する予定でした。日本から北上した低気圧は更に勢いを増してサハリンを直撃。朝6時、風が窓を叩く音と建物自体の大きな揺れで目が醒め、カーテンを開けると思わず“絶句！”。視界ほぼゼロ。外へは一步も出られませんでした。

こうした状態が何と夕方近くまで続き、逃げたくても逃げられない環境の中で（いつ崩れ落ちてもおかしくない不安の中で）、半日を過ごしました。その後、情報が入り、飛行場は終日封鎖。帰国は絶望となりました。

特に、私の自宅はユジノ市郊外に立地しているため被害は甚大で、翌日も除雪が間に合わなく交通機関もマヒ状態。陸の孤島と化してしまっただけです。何とか職員（運転手）にランクルで自宅まで来てもらい出勤できましたが、車もまばらで、人は車道を歩き、周りの光景は昨日の“暴風&吹雪”で路上に放置された車の残骸だらけでした。4月にこれだけの吹雪の記憶はロシア人にもないそうです。



翌日の光景



自宅窓からの光景

三上 訓人